

# 友愛

機関紙「友愛」(題字・鳩山一郎先生)

発行所

(財)日本友愛青年協会  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-25-9-404  
TEL 03-5684-3188  
FAX 03-5684-3186発行人:川手正一郎  
編集人:萩原直三  
隔月一回 10日発行  
講読料  
年間 3,000円

鳩山一郎元総理と薰夫人(元共立女子学園長)

# 国民と共に生きた大衆政治家 理想と友愛・鳩山一郎先生

—人間愛・反権力・勇気・決断—

「友愛の精神」を貫いた、眞の自由主義者・鳩山一郎先生が亡くなつて、早いもので今で四十年を迎える。逝去された日の夕刊各紙は、「純粹で進歩的・象徴的な政黨政治家を惜しむ」(昭和三十四年三月七日「読売新聞」と、大きな紙面を割いた)。また、翌日「天声人語」(朝日新聞)は、「人柄があけっぱなしで人なつっこく、憎めない、愛される人徳」にも触れながら、「日ソ国交回復」のときなどの、「貫した信念と氣概」について高く評した。「読売新聞」の「編集手帳」は、「戦後日本の民主主義のあり方と方向を、身をもって示した純粹な政治意識に脱帽する」と語つてゐる。今日のように、政治が停滞し、社会が活力を失つてゐる時にこそ、あらためて先生の信念に学び、「友愛精神」を実践して行くべき時ではないかと痛感する。

## 人間の尊厳と自由尊重

先生は「民主主義にとって最も重要なのは、人間の尊嚴に基づく自由の尊重である」と述べると共に、「自由と平等との、とかく相容れない対立関係を調和し統一する」ことを学び、「友愛精神」を実践して行くべき時ではないかと痛感する。

ものは実に「友愛精神」を描いて「他に求むべくもない」(昭和二十九年二月二十五日付・機関紙「友愛」創刊号)と語つた(詳しくは、一郎先生訳・クーデンホフ・カレルギー伯著『自由と人生』)。こうした先生の信念は、あの

「一二・二六事件」の起きる一ヶ月前、「自由主義者の手帳」を発表していることからもよく分かる

(『中央公論』昭和十一年一月号)。

その中で先生は「人間が自由を求める心、自由を理想とする主義、あるいは自己の定めた規律で自己の完

成を計つて、それには他の干涉を許さないといふ主張は、如何なる

時代に於ても人間性の根柢をなし、血管を流れ

て生きる抜き難い信念である」と述べている。

先生は後に「GHQの内部抗争のありでバージを受けられる」が、これについて詳論家の故阿部真之助(元NHK会長)は、「鳩山のバジ」は、昭和最大の悲劇だった。同時にマッカーサー軍政の最大の失策だった」と語り、「GHQ元重幕僚の「日本の政治の方向を誤らしめたのは、鳩山バジから始まつた。取り返しのつかないことをした」との証言を紹介している(「鳩山一郎論」「文藝春秋」昭和二十九年七月号)。

## 愛情・清潔・明朗闘達

ところで先生は、總理に就任した時の談話で「まず第一に、政治を明るい清潔なものにして国民大衆とともに親しみ合い、大衆とともに歩む」といったような政治にいたしたい」と述べるとともに、「

深い父です。いろいろな用事で疲れて帰つて参りました時でも、勉強して居りますと、「分からなければ無いか、分からなかつたら持つておいで」とかやさしい言葉をかけてくれます」「朗らかなお父さま」「婦人サロン」(昭和七年二月号)と語つてゐるが、先生の家族に対するその愛情は、まったく変わることなく、國民への愛情でもあります。國民への深い想い」「毎日新聞」(昭和三十一年十月十九日)があつたことも確かである。



国民に訴える一郎先生(民主党大会・昭和29年)

「祖国を愛する情熱」を基盤に「正しい人が正しく楽に暮らせるようになりたい」と語った(「朝日新聞」昭和二十九年十二月十日)。「鳩山の持味は、明朗の二字に尽きる」(同・十一月付)と言われるだけであつて、次女である鳩山玲子さんは「やさしい、そして慈愛の本當には大きな期待と希望を持った。か

1999年(平成11年)3月10日



左から薰先生、一人おいて由紀夫さん、邦夫さん、和子さん、一郎先生

もとより先生の全軌跡について語るなどはとてもできないが、先に述べた「理不尽な公職追放」にあるときですら、「軽井沢での生活は『晴耕雨耕』で：非常に天地に対する温か味を感じるようになって、本当に幸福だと思った」と「天地の愛を思う」。

「『鳩山一郎回顧録』『特集・文藝春秋』昭和三十二年四月」の先生は、この上なく明朗闊達である。そして先生は、その頃の薰先生との日々をひたすら懐かしむ。「世間では、鳩山さんを“悲劇の政治家”などと呼んでいるが、

どうしてどうして百万人に一人の良き妻を得て、その手に抱かれて、安らかに死ぬことができた。幸福の意味ではまったくそのとおりの生涯であったのかかもしれない。先生は、この上なく明朗闊達で吉びていい。それどころか、いかに時代が変わろうとも、先生は、この「友愛の精神」はいさか生きない。それが、その時代が変わったが、同時に「日ソ国交に命懸けで臨んだ」ようにして、この十五年祭のときに「昭和四十年三月七日」於「椿山荘」、岸信介元総理は「戦前、戦後を通じてわが国政治家の最高の方であります」と追悼し、田中角栄総理（当時）は「先生は、『政治に友

愛を』との確たる信念を持つてられた」とその偉業を称えてくださった（同年三月十日付・機関紙『友愛』第二五四号）。

その意味では、まさに時代が変わろうとも、先生は、この上なく明朗闊達で吉びていい。それどころか、いかに時代が変わろうとも、先生は、この「友愛の精神」はいさか生きない。それが、その時代が変わったが、同時に「日ソ国交に命懸けで臨んだ」ようにして、この十五年祭のときに「昭和四十年三月七日」於「椿山荘」、岸信介元総理は「戦前、戦後を通じてわが国政治家の最高の方であります」と追悼し、田中角栄総理（当時）は「先生は、『政治に友



日ソ国交回復

たい」旨の挨拶があった。

続いた邦夫代議士は、

「今、私は政治家として、正念場に立っている」と述べ、その後、「今日の日本が低迷しているのは、政治が旧態依然の政・官・業の癒に立つて、構造の中にいるからである。それは、一人一人の生活や幸福を考へるという構造ではない。この根本を打ち破るためにも、どうし

ても新たな政治行動を起こさねば

ならない」と語った。

川手代表世話をした「由紀夫・邦夫両代議士」は、心から支えていくのはここにいる「友愛」の皆さんだと思う。『友愛精神による政治』の実現も、そう遠くない気がする。ぜひ、力を合わせて頑張りましょう」との挨拶があった。今回は、鳩山ご兄弟の力強い決意が伺えた、有意義な新年会であった。



「友愛社会を」由紀夫代議士

■友愛クラブ第三五〇回  
由紀夫・邦夫氏を迎えて

去る一月十三日(水)に、鳩山由紀夫・邦夫両代議士をお招きして、第三五〇回の友愛クラブの新年会が開催された(キャピトル東急)。まず、由紀夫代議士からは、冒頭「昭和四十二年から続いている、このクラブに敬意を表したい」とあり、さらに「カレルギー伯の提唱した『友愛精神』を、いよいよ政治の場で確実に実践していく

■友愛クラブ第三五一回  
民主党・松沢代議士「改革」を語る

去る二月十日(水)に、民主党衆議院議員・松沢成文先生(国会対策副委員長)をお迎えして、第三五一回の友愛クラブ例会が開催された(キャピトル東急)。松沢先生は、先の民主党党首選に立候補し、五一票を獲得するとい

大健闘をされた若手のホープである。当日、松沢先生は、今日の閉幕した政治状況を、何とかして打破したいという強い情熱を示された。特に情報公開を通じて、開かれた政治を実現しなければならないと語った。また、憲法についても、あらゆる角度から自由に論議すべきであって、その場のぎの解釈論で逃げてはいけないと語った。「改革」を掲げる党として、民主党はもっと戦うべきであるとの信念を披瀝された。そうした松沢先生の明快な論理と、明るい人柄で例会も熱気を帯びた。「これからも、是非、頑張っていただきたい」との激励で例会を終了した。



戦う民主党に・松沢先生

（鳩山一郎著『私の信条』より）

正しいことであれば、自分の好みとところをどしどし行うがよい。人にも、自分自身を抑圧することはよくない。非難攻撃ばかり恐れていっては、人間の進歩が止まってしまう。

友愛

# 邦夫代議士

## 身近な都政に!!

友愛婦人会



「地方奪権」邦夫代議士

去る一月十一日(月)に椿山荘にて、友愛婦人会の新年会が開催された。まず種田副会長の開会の辞があり、安子会長からは、「昨年の活発な活動に感謝をしつつ、今年も会員の皆様にとって良い年でありますように」との挨拶があつた。川手鳩山会館館長よりは、「機関紙『友愛新年号』にあるように、由紀夫先生の『友愛社会を目指して』と、邦夫先生の『果断に行動する政治に』に期待したい」旨の挨拶があつた。

鳩山邦夫代議士は、テレビの料理番組の撮影が若干延びて、大急ぎでお見えになつたが、さすがに代議士が登場すると、会員の皆さん大拍手で、一気に会場は盛り上がつた。邦夫代議士は、そのテレビ番組での「漬物」についての講義(?)で、ひとしきり会場を和ませながら、本題では「閉塞した政治状況を打破するために、新たな決意で政治に取り組む」と、ひょいお力を」とも述べた。

第二部として、島崎照代先生(武蔵野音大講師・本財團評議員)による「ミニ・コンサート」が行



友愛婦人会の皆さん

## Personal Identity

### 人間としての鳩山邦夫



鳩山邦夫は、政治家として不器用な人間かもしれない。彼は本気になつて笑い、本気になつて涙する。どんなことにも真剣になつてしまふ。

趣味だつて、単なる趣味など、名人と呼ばれるほど本気で取り組む。自然と共存しながら、一

われた(ピアノは、片岡由以子さん)。アンコールでは、「さくら」と「早春賦」が、会場全員で歌われた。倉林副会長の「閉会の辭」と記念撮影で、年の初めの楽しい宴はお開きとなつた。司会は神戸さんと大川さんが務めた。なお、当日現在好評発売中の鳩山幸さんの『鳩山家の愛情こはん』(扶桑社)が、皆様に紹介された。

去る一月二十六日(火)に、施衛国・南京市外事弁公室主任(前・施同市青年連合会主席)を団長とする「南京市友好交流代表团一行九名」が、「友愛」を表敬した。同代表团は鳩山会館にて、川手鳩山会館館長(当財團常務理事)と懇談し、友好を深めた。一昨年来、「友愛」と南京市とは、交流をしており、今回も、日中両国青年が、二十世紀にどのように理解を促進していくかが大きなテーマであった。施団長との懇談の席上、川手館長は、歴史的にも南京は、日本が最も重要な都市であるという認識に立つて、この交流を考えていると述べた。これについては施団長も全面的に賛同され、中国側もその「友愛の精神」で応えていく

旨の発言があつた。引き続いて、二十八日(木)には、鳩山由紀夫民主党幹事長(当財團理事)を表敬した(民主党本部)。鳩山幹事長代理は、私は、日中平和友好条約の主旨に沿って、眞の友情と理解を促進する姿勢であると述べた。その際の基本は「友愛精神」である旨の歓迎の挨拶を行つた。

## 中国との「友愛交流」活発化 —由紀夫代議士 —南京市代表団と懇談—

### 民主党



由紀夫先生と施団長

鳩  
和

で、この三月下旬から地方統一選挙が行われようとしています。東京都においては、知事選挙に鳩山邦夫代議士が出馬を表明いたしました。長年国政に携わり、文部大臣・労働大臣を歴任され、その手腕は高く評価されています。もとより国政においても得がたい人材ですが、この行き詰った「都政の打開のために」一大決心をされました。その愚直ともいえる決断と心意気に、多くの都民が感銘を受け、期待が集まっています。戦後日本の復興に、初の党派総理大臣として活躍された鳩山一郎先生が逝去され、四十年を数えようとしています。鳩山総理は、保守合間に続き、不自由な身体をして「日ソ交渉」をまとめ上げ、国際連合の加盟を果たし、日本を名実ともに「国際社会」に復帰させました。五十年代以上の国民にとっては、今でも忘れられない感動的な場面があります。それは、昭和三十一年十二月末、ソ連からの引揚船「興安丸」の舞鶴港への接岸でした。『日ソ国交回復』は、過酷な滞留生活を送った方々と、その留守家族との再会という、心から震えるような歓喜の瞬間も生み出しました。本文でも触れましたが、鳩山総理は、常に大衆の喜びや悲しみや苦しみとともに生き抜いた、「眞の大衆政治家」でした。今回の、退路を絶つての邦夫代議士の決断は、鳩山総理の訪日にも似た決断だと思います。「自然との共生」を掲げ、このコンクリートジャングルを、安らぎのある「友愛・東京」に改革するため邁進する邦夫代議士に、多くの都民は共感を寄せています。いわば、政治家となるために生まれてきたともいえる邦夫代議士は、「一郎先生と同様、大衆の痛みの分かる本物の政治家です。その邦夫代議士こそ、世の中に安心と安全と安定」をもたらし、都政重建・景気回復を任せられる適任者だと確信します。

# 友愛・共生・人間・自然

新しい東京をめざして



明るい未来に!!

夢とロマン「安心と安全」東京再建

## はとやま邦夫

生命と子ども・暮らしこと環境

自然に触れ、自然を知り、自然の豊かさに出会い、自然のこわさ、おそろしさを知るうちに自然に対する愛情と畏敬の念の両方を抱く。人間もホモ・サピエンスなる大自然の一員なのであるから、自然に帰り、自然を理解することが最も大切である。逆に自然を支配し万物の靈長だとうそぶく人類は、いずれ大自然からきびしい、「しつべ返し」をくらうことになる。

工口ヨリ、温室効果、オゾンホールなどなど、理屈だけ教えるよりも、最高の環境教育とは、子どもたちと自然の出会いを作つてやることだ。何も口でいわすともいい。大自然と触れさえすれば、必ず自然に対する深い愛情と理解が生まれていくにちがいない。春の雑木林に分け入つて、コゴミのごまあえとタラノメの天ぷらを、自らの収穫によって味わうとき、子供たちは、かけがえのない地球の大切さを知ることになるだろう。

春になつたら雑木林へいこう。そして自然のすばらしさを実感してみよう。

鳩山邦夫

わが町・いたわり・家族・やすらぎ

周辺伐採問題  
文相、祝辞で批判  
わが町・いたわり・家族・やすらぎ

周辺伐採問題

文相、祝辞で批判



上方の人招待  
福岡で植樹祭



### 都政・あなたの声

介護・保育・子育て・ゴミ問題・情報公開など何でもお聞かせください。一緒に行動します。

はとやま邦夫ホームページ

URL <http://www.tokyo-roman.com>

E-mail

Hatakeyama-Kunio@tokyo-roman.com

TEL 03-3816-3131

FAX 03-3818-9516



料理も“鉄人”